

あすの朝刊

11年度の社会福祉  
優良従事者決まる

山陽新聞社会事業団  
が岡山県内の社会福祉  
関係の第一線で職務に  
精励し、献身的な活動  
を続ける10人を。

主なニュース

- 2面 混乱続く沖縄平和事業
- 3面 イトマン元社長に実刑
- 7面 杉山組が混復で決勝へ

夕刊

山陽新聞

発行所  
山陽新聞社  
岡山市柳町2丁目1番23号  
郵便番号 700-8634 電話(086)  
総務局231-2210 人事部233-8455  
販売局231-2222 広告局231-2221  
事業局233-2300  
郵便振替口座 01230-4-5270  
©山陽新聞社 1999

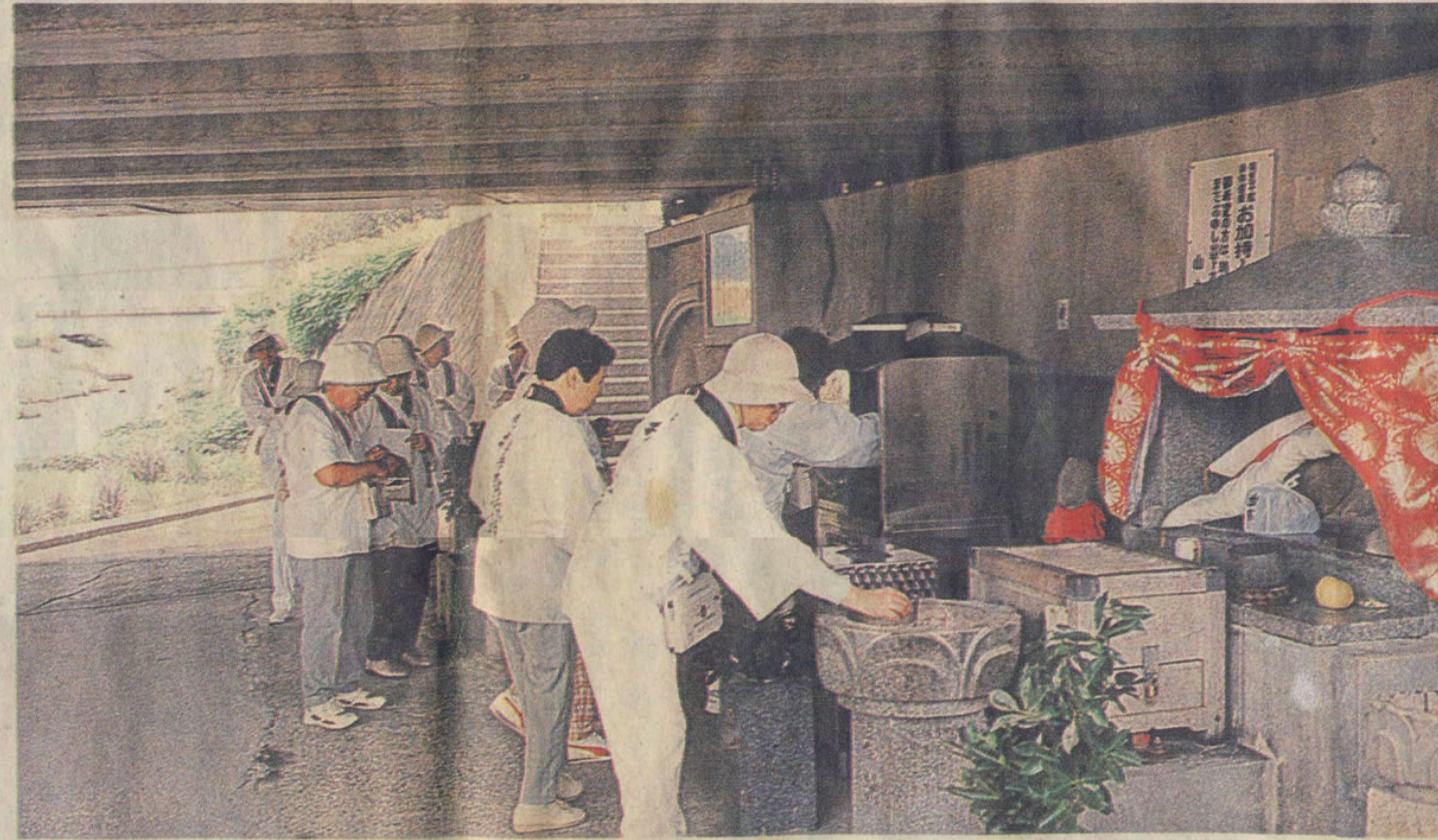
山陽新聞社新聞製作センター  
岡山市新屋敷町1丁目1番18号  
郵便番号 700-8734 電話(086)  
244-3903  
245-8634  
読者センター  
政治部244-3905 経済部244-3906  
社会部244-3908 文化部244-3911  
運動部244-3913 写真部244-3915  
メディア開発局 244-3923

山陽休暇村  
真庭郡川上村西茅部  
tel 0867(66)3191



へんろみち きせつのかたらい  
四国霊場 四季暦

47



お遍路は橋の上では金剛杖(つえ)をつかないものだという戒めがある。私も守ってきたのだが、その戒めの元となったのが、どうやら二十夜が橋(とよがはし)らしい。弘法大師・空海がこの橋の下で...

小島さんは自らに修行を課しての旅だ。千人宿記念大師堂。夜を過ごしたという伝説が残っている。伝説では一夜が十夜にも感じられる寂しく、寒い場所だった。で、大師の安眠を妨げないよう戒めが伝わっているのだが、今や橋の上は国道56号。ゴーゴーと車の音がかまびすしいかぎりだ。

見たり 求道の姿

お参りを済ませて歩きだしたころより日差しが過激になった。国道沿いを東へ向けてたどっていくのだが、日陰はないし、アスファルトの照り返しはきついし。処暑だというのに、名ばかりだ。

人生の基盤づくり  
月下旬から所用で帰ったが、お盆過ぎまで続きを始めた。

社長公認のお遍路ではあるが、条件が厳しい。「金を持って行かず、苦勞してこい」。たく鉢をしながら回っているの。二月一日、徳島県の一番霊山寺から始めたものの、般若心経など読んだこともなかった。金はない。でも、野宿には寒過ぎる。八幡熊谷寺へ飛び込んだ。「すみませんお経教えてください」と頼んだ。「二、三日おきなさい」と任職。通夜堂に泊めてもらい、指導を受けた。

十三番大日寺へ向かう途中では、遭遇した女性の歩き遍路に勧められて番外札所の建治寺を訪ねた。住職は滞在を許してくれた。修行をさせてもらった。極寒に「建治の滝」に打たれながら読経する滝行もした。結局そこでは四月までの二十日間を過ごした。

以後はたく鉢をしながら、野宿とお寺へ泊めてもらうのを基本に、お金がたまればたまに旅館という生活の遍路旅。六

第5部

解説委員室

②

44~53番札所 (愛媛)

横田 賢一